

# THE NA Way MAGAZINE®

「世界中で読まれているNAの定期刊行物」

THE INTERNATIONAL JOURNAL OF NARCOTICS ANONYMOUS



2014年4月発行  
第31号 / 2号



• 役に立ちたいわけ

• 古巣に足を運ぶ

• WCNA 36 (第36回NAワールドコンベンション)

• [電子版ではポスターがみられます](#)



## 世界中で読まれている NAの 定期刊行物

NA Way マガジンは、ナルコティクスアノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのももちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

NA World Services, Inc.  
PO Box 9999  
Van Nuys, CA 91409 USA  
Telephone: (818) 773-9999  
Fax: (818) 700-0700  
Website: [www.na.org](http://www.na.org)

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしております。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしています。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクスアノニマスワールドサービス社に所有権があるとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクスアノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクスアノニマスワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、[naway@na.org](mailto:naway@na.org)にeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクスアノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクスアノニマスワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクスアノニマスワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

## 編集者から、ひとこと

今月号は、全編を通して胸に迫るものがある。さまざまなメンバーやサービス機関から寄せられた記事を読んでいると、NAのスピリチュアルな原理とNAの第一の目的を実現させることへの一途な思いとに鼓舞されて、わたしたちが力を合わせたときの底力というものが伝わってくるのだ。わたしたちはNAメンバーとしても、ひとりのアディクトとしても、グループやサービス機関の一員としても、感謝すべきことがたくさんある。ナルコティクスアノニマスは、1950年に誕生したばかりのころにはミーティングの数も数えるほどだったのが、いつのまにか回復を求めるアディクトがこれならできそうだとやる気になって続けていける解決法とされるまでになっている。世界中で61,000を超えるミーティングが開かれ、そこに集まるアディクトたちは生い立ちや信条の違いをもとめせず支え合い、サービスを提供するために心をひとつにする。それによって、ひとりひとりのメンバーもこのNAという仲間の集まりもしっかり成長することができるのだ。

『なぜ、どのように効果があるのか』のなかには、まさに今月号にぴったりの一節があるので紹介しておこう。「この本は、NAのステップや伝統を徹底的に研究するためのものでも、回復のあらゆる面や、NAの一体性について、結論を示すためのものでもありません。……これから続くページの中から、皆さまが成長や理解や共感を見つけ出しただけを願っています、さらにこの本によって、回復についての洞察がさらに深まり、ナルコティクスアノニマスの中の皆さまの居場所がさらに意義のあるものになることをお祈りしています」

ド・J (エディター)

## 今月号の掲載記事

<b>特集記事</b>	3	• 確実に実行する アフガニスタンの成長 伝統の話をする
• 13,575日を生き長らえて		
<b>わかちあい</b>	5	• ザ・ジャーニー・コンティニューズ 国境のない結びつき「ラテンアメリカ ゾーナルフォーラム」 アロハ、NA
• 役に立ちたいわけ		
• ラテンアメリカでNAの愛に包まれる		
• 古巣に足を運ぶ		
<b>ベーシック・キャプション・コンテスト</b>	8	<b>WCNA 36 (第36回NAワールドコン ベンション)</b> 17
<b>『伝統』に関する書籍のプロジェク</b>	9	<b>Calendar</b> 18
<b>フェローシップディベロップメント</b>	13	<b>NAWS Product Update</b> 20
• 可能性の宝庫 「こうすればいいんじゃないかな・・・」… マルチゾーナル サービスシンポジウム		<b>Coming Soon</b> 20

Electronic subscribers can click here  
for additional content.

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからのご便りをお待ちしています。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。



# 13,575日を生き長らえて

私は、地元のNAでは恐竜のような存在になっている。「過去の人」というわけだ。それでもみんなからは慕われ、一目置かれているらしい。会えばたいい笑顔で接してくれるし、ステップや伝統や文献やサービスなど、このプログラムについて私の経験からおぼれに預かろうと質問攻めにあう。まあ、少なくともこのあたりでは、かなりの有名人だ。それで、会ったこともない相手が、私の名前を知っていたりもする。私にはホームグループがあり、スポンサーがひとりとわずかながらスポンサーもいるし、自分の理解した神との意識的なふれあいを持っている。ステップワークとサービスにいそしみ、NAに対する忠誠心も献身も感謝の気持ちも人一倍で薄れることがない。37年もクリーンでいれば、骨の髄までNAの一部になってしまうのだ。

もともと、何もかもがすばらしいわけじゃない。ときどき、ほかの仲間たちとの間に「何か」が大きく立ちふさがるというか、私が「フツーの」NAメンバーになるのを妨げるものが山ほどあるみたいに思えてくるのだ。私はNAが今とはまったく違って時代の人間だから、私の経験に共感したり、私の経験によってはぐまれた考えや姿勢や信念に同意したりするのは、今のメンバーには無理なことなのだろう。しかも、私にはAA（アルコールクス アノニマス）につながったおかげで回復の道に踏み出せたという経緯があり、それだけでもう話しづらくなる。そもそも、いったいどうやってそのことを話せばいいのか。「『NAではない仲間の集まり』に助けてもらった』などと言ったら、NAミーティングが私たちの第一の目的からそれになってしまうだろう。だからといって、自分が回復の道を歩み始めたところにもたらされた気づきや思いやりについて話す際に、それがNAでのことではないのを明らかにしなければ仲間を欺くことになるし、クリーンで歩み出して（12のステップを踏んで）いくなかで共に歩んでくれた仲間たちにも何とも申し訳ない気がする。

それに、私はNAのメンバーになるまでにえらく時間がかかったということもある。NAのことを耳にしたときにはクリーンになって一年半が過ぎていたし、NAのメンバーと会って話をしたのはそれからさらに3ヶ月も後のことだった。今のメンバーはほとんどがNAにつながってはじめてクリーンになるが、このあたり（およそ半径50マイル以内の地域）で週に6回のミーティングが開かれるようになったのは、私がクリーンになって3年が過ぎたころだった。つまり、私はNAでは最初からずっとオールドタイマーだった。NAに参加するようになったばかりのころから、仲間たちに頼りにされ、リーダーシップを期待された。今なら、新しい仲間がつながるとみんなで熱心に手をさしのべるが、私の場合にはそういう支援や優しさを提供してもらえない時期がなかったのだ。

そうしてクリーンにはなったものの、しばらくはミーティングに不自由した。そこで私は、半年間、毎週日曜日にミーティングができる会場を用意して、ほかのアディクトがやってくるのを待つということをやっていた。今に至ってもなお、NAのミーティングがあるというのはかけがえのないことで、だからこそ何が何でも回復しようという場になるのだと思っている。けれども今は、NAにつながるのはいずれのことではない。みんな、ミーティングなんていくらでもあるとか思っていないので、「席についておとなしく耳を傾ける」ことの重要性がわかっているように私には思える。そういうメンバーたちには、読み合わせやお知らせの間に私語を交わしたりミーティングの最中に電話で話をしたりすることなど、わけもないだろう。私にはとてもじゃないができないことだ。

1979年の秋にNAにつながって以来、私はNAに積極的に関わって信頼されるしもべとなってきた。あちこちで開かれるASCやRSCのミーティングをはじめ、電話によるサービス、広報やH&I（病院施設）の委員会、そして遠隔地にいるメンバーたちとこのあたりのNAをつなぐ電話や手紙でのやりとりなど、あげていけばきりがない。あの当時「NAに積極的に関わるメンバー」であるなら、ガソリン代も、市内通話や長距離通話の料金も、チラシやメモや報告書の大量のコピー代も自腹でなんとかした。「NAに積極的に関わるメンバー」でいると、「どうすれば、NAがしっかりしてさらによくなるのか。どうしたら、この先もNAが確実に存続していけるのか」ということが片時も頭を離れなかった。こうして1980年の大半は、自分のことはさておいて、NAをよくするために自由になる時間や金や労力をつき込んだ。その間10年もクスリを断っていたのに、ほとんど回復はしていなかった。そしてクリーンタイムが12年になったころ、私なんかよりずっと少ない期間で、私の及ばない成長や変化を上げた仲間を数多く目にするようになった。私は、だまされたようで恨めしかった。職歴や教育や収入がなければ社会でしっかり生きていくことはできないが、そのどれひとつをとっても、私にはいまだに取り戻せない「遅れ」があるように思ってしまうときがある。

私は、NAのもっとも素晴らしいところと最悪なところをみてきた。NAはほとんどでもない過ちを犯すこともあれば、ほれぼれするようなひらめきや英知を発揮することもあった。そのせいか、私の忠誠心と愛は、猜疑心とセットになっている。

それがまた、今のメンバーたちと違うところだ。みんな、今のNAのめざましい発展ぶりしか知らないの、自分の手にしているものを疑ったりはしない。かつてのNAは、仲間の集まりと言ってもものすごく人数が少な



かったので、お互いを悪く思ったらおしまいだった。だからこそ、NAを、ミーティングにやってきた人が「だれひとりとして」疎外感をもつことなく、心から歓迎されていると感じられるような集まりにしたいとがんばった。そういう時代を、私はこの目でみてきたのだ。それなのに、しばらくの間、当時のことをすっかり忘れてしまい、NA純粹主義者の頑固者になってAAと二股をかけているメンバーを攻撃したのだから、私は（生涯をかけて）埋め合わせをしていかなければならない。私のいるところで「間違った言葉」を使うのは許されなかったというの、そのひとつだ。NAはもう、この種の「NAらしからぬ言葉遣い」があってもびくともしないほど大きくなっているのだし、みんなから私以外にNAのことを取り締まれる者はいないと期待されても、私はそんなことをするより、むしろ寛容であることによって手本とならなければならないのだ。

こうして日々生きながらえるなかで、私よりクリーンタイムが長いのはスポンサーだけになってしまったし、そのスポンサーとも今はめったに顔を合わせることはない。たまにムシャクシャすることがな

これからは、

みなさんたちのNAで

過去の人になっているメンバーを見かけたら……

いわけではないが、そういうときにはもっぱら自分と「同期」の仲間2人を相手に電話でわかちあう。この2人以外で、私がつながったときに頼りにしていた同期の仲間たちはみな、NAに積極的に関わるのをやめてしまったか、亡くなってしまったかのどちらかである。毎日のように顔を合わせているメンバーたちといえば、私より5年ぐらいい後につながってクリーンになったメンバーが5人か10人ぐらいたろうか。あとは、私より10年か、25年、さらには37年ほど後からつながってクリーンになったメンバーたちだ。そりゃ、同じアディクトだから共通点はいっぱいあるが、横に座って「今の私と同じくらいのクリーンタイムを重ねたとき、どんな風でしたか」と聞ける相手はまずいない。

これまでに親しい仲間の死を乗り越えるというつらい思いをしたのは、一度や二度ではなかった。過剰摂取、心臓発作、卒中、自動車事故、あるいは刃物で刺されたり、銃で撃たれたり、そしてエイズはもちろん実にさまざまな病気によって命を落とした。人生ははかなく、あっという間に過ぎ去る。かけがえのないものなのだ。それゆえ、私はどんなつきあひにもすごい熱意や気合いを込めてしまうため、ほかのメンバーたちが寄りつかなくなる。みんな、恐れをなすのだ。

NAのなかで、私のクリーンタイムはよく知られているし、私の物語や意見も多少は知られている。だが、それ以外のこと、たとえば音楽の好みやひいきのスポーツチームなど、私のことを知っているメンバーは少ない。

メンバーたちにとって、私はひとりの人間であったり仲間であったりする以前に、まずオールドタイマーであり、NAの生き証人であり、NAのことな

ら「何でも答えてくれる人」なのだ。私が使っていたとか、ニューカマーだったなんて、想像もつかないのだろう。実際、何度となくそんなふうに言われてきた。だから、どうしても「みんなから浮いている」ように感じてしまうんだ。

要するに、オールドタイマーでいることなんて、そんなに素晴らしいことでもないのだ。今さら、きれいごとを書いてもはじまらない。こんなことを言うのはNAを冒涇するようなものだとかはわかるが、でも、ほとんどのメンバーと私との間には「クリーンタイムの格差」がある。それはある意味、私はみんなとは違うということだ。それがときに私を孤独にするというのに……私にはやはり、何にも代え難いものなのだ。

なにしろ、私は37年間も生きのびたのだ。そんなことがあり得るなんて思う人間は（私はもちろん）友人も、身内も、医者も、警官も、薬の売人も、38年前にはひとりとしていしなかった。それが、なんと37年もクリーンタイムを重ねることになったのだ。13,575日という日々は「衝動にまかせてやみくもに突っ走るのではなく、自分なりに考えて行動しようとする」との連続だった。37年の間、気づきを重ねてきた。つまり、3分の1世紀以上も驚きと成長と喜びを経験してきたのだ。まったく、たいしたものだ。そうやってどれだけクリーンタイムを重ねても、私はすべてを知り尽くしたわけではないし、わからないことだらけだ。それでも今、私の人生はものすごく充実している。NAの中にも外にも、友人がいる。NAにおいても社会においても、さまざまなことを成し遂げた。自分より偉大な力によって、思いやりの心と強さ、そしてわずかながらかもしれないが賢さが与えられた。NAのプログラムはほんとうに「実に簡単な一連の原理」になったので、日々の生活のなかで実行していくことができる。「自分についての棚卸し」は、好んでやっている。自分の過ちや欠点によって打ちのめされるのではなく、自分の至らないところを理解してどうすればいいかを学べるのだから、やりがいがある。おかげで自分という人間であるか、よくわかった。日々、現実があるがまに受け止めて生きていけば、不満などありはしない。

私は、ほんとうはだれにも負けないくらいNAにとけこんでいるんだ。違いなんて、些細なことに過ぎない。回復の道を踏み出したのがNAではなかったメンバーは、私だけではないのだ。リハビリ施設や治療施設とか、NA以外の集まりなどからつながることもあれば、いろんな宗教に関わったり刑務所を経たりしてつながることもあるだろう。疑い深く、何か本筋からそれいていると思ったときに声を上げてやろうという気であるメンバーも、私だけではない。NAの主流から外れて「浮き上がってしまった」メンバーなんて、ほかにいくらでもいる。そして、さまざまな義務に甘んじることによって頻りにミーティングに出席することができなくなってしまったNAメンバーも少なくないし、

そうなれば、だれだって一回、一回のミーティングを本当に大事にするようになるだろう。べつに私だけがミーティングのありがたみをわかっているわけではないのだ。

NAはゆっくりと長い時間をかけて大きく成長したのだから、その間にはさまざまなことがあったし、それを経験してきたことで今はほかの仲間のお手本になっているメンバーがたくさんいる。実際に、私がいまだかつて経験したことのないようなことに出くわしているメンバーが掃いて捨てるほどいる。だから、大切な人の死による痛みについても、自分にしかわからないこととか、自分はだれよりも思いが強いなどと言うつもりは毛頭ない。たとえ人にはあまりわかってもらえないようなことであっても、NAメンバーであればまず例外なく、それぞれがそれなりの理由で、それぞれのクリーンタイムにほとんど関係なく、共感するだろう。だが逆に、耳を傾けてもらえないことだってある。実際に、数年のクリーンタイムがあるメンバーでも、コントロールする試みとしてその経験が無視されたり不当に決めつけられたりしてきたのだ。

私自身のことでは、二つほど言わせてもらいたいことがある。ひとつは、一緒につつまオールドタイマーがいなくて、もうひとつは、自分のことはさておいて、ただひたすらNAの幸せのために実に長い年月を費やしてきたこと。でも、まあ、しょうがないか。もし、オールドタイマー同士で分かち合うことがそれほど重要なら、自分より長くクリーンタイムを重ねている仲間で、電話で話せる相手を新しくつろうと努力すればいいことだ。だがそれも、自分よりクリーンタイムの短い仲間「道を示してもらおう」ことができるようになったので、今の私はそうやって学ばせてもらうことを楽しみにしている。年月を捧げたということなら、私は過去にとどまるのをやめて今を生きなければならなかった。そのために、私は10年前に学校に戻り、50歳になる1ヶ月前に大卒の資格を得た。

そんなこんなで、私はこのあたりのNAではすっかり過去の人だ。だが、NAで生きていけば、みなさんもいつかは押しも押されもしないオールドタイマーになる。それは可能性があるということだけではなく、そうなることを期待されてもいるのだということ、忘れないように。もしかすると、これからは、みなさんのNAで過去の人を見かけたらちょっとは思い出すんじゃないかな。それだけのクリーンタイムを重ねてきたことは、その人にとつて決して楽な道のりではなかったということね。近況を尋ねてみようとするかもしれないし、だったら、その答えに本気で耳を傾けてほしい。その人たちの視点でものを見てみれば、お互いのクリーンタイムによってできた断絶を超えて心を通わせることになるだろう。最後に、これだけはわかってほしい。みなさんが、私や私につつまオールドタイマーに手をさしのべようとさしのべまいと、私はみなさんがNAにいてくれてうれしいし、私もNAにいてよかったと思っている。そして、私たちの究極の権威が、私たちにクリーンで生きるために今日という日を与えてくれたことも、ナルコティクスアノニマスという仲間の集まりのなかで回復できるようにしてくれたことも、ありがたいことだと思っている。

アノニマス



## 役に立ちたいわけ

はじめまして。ぼくはアディクトのジェイミー・V。ぼくは13歳のときに、つまらないことに、わずらわされないで人や場所やものごとを利用するという夢を追求したくなって、マサチューセッツ州のグロセスターという漁村にある母親の家を出た。

そして2000年の6月、24歳の若者となってナルコティクス アノニマスにたどりついた。あのとき初めて出会った仲間たちは、ぼくのことをすんなり受け入れてくれた。そうやって、使うのをやめようとやめまいとぼくもNAのメンバーだと教えてくれたんだ。実際、ぼくは使うのをやめていなかったし、NAにつながってから数ヶ月はずっと使っていた。でも、その間に、イヤイヤながらもNAの洗礼を受けた。仲間たちによってコンベンションにどっぷりひたされたのも、そのひとつだ。ぼくはクスリで具合が悪いなかを（バーモント州のバーリントンにある）家から遠く離れた会場に連れて行かれ、シャワーも浴びていない状態でダンスに引きずり出され、野外パーティや長椅子で食事をさせられた。そのほかにも仲間たちは、午前2時にクスリでいかれたぼくの電話に出てくれた。禁断症状がでるたびにぼくをベッドに寝かしつけてくれた。ぼくが女をつくっちゃ「治療」と称して決めまり、1週間もして戻ってくると「もう元気になったのか」などと声をかけてくれた。やることもやらずにキータグを増やすごとに拍手をしてくれた。そしてハグして、ハグして、ハグしてくれた。そうやってひたすら愛しまくられたからこそ、2001年の7月にぼくはクリーンになれたんだ。それからもう、使う必要がなくなった。現実はいどおりにならず、人生がままならないとしてもね。

ぼくはボストンに移って、ようやく今日だけクリーンで生きる方法を学んだ。ありがたいことにボストンはものすごく雑多な街で、いたるところにNAのミーティングがある。ぼくはいろんな会場をまわるうちにあるがままの自分でいられるようになり、「何があっても使わない」だけにとどまらない提案をいくつか取り入れるようになっていった。そして、クリーンタイムを重ねようと思えばわけもないと教わった。使わないで死ななきゃいいんだからね。でも、回復したいとなれば、4つの簡単な質問に答えられないとまずい。それは、スポンサーはだれか、どのステップに取り組んでいるか、ホームグループはどこか、サービスではどんな役割についているかという質問だった。

自分が変わらなかつたらクリーンになっても先がないという考えは、もう死ぬほど恐ろしかった。それは今も変わらない。だから、ぼくはこの4つの質問に答えられるようにした。それ以来、返事に困ることはなかった。もちろん、ぼくがそういう状態にいる目的は年月を経るうちに様変わりしたが、それでもやはりスポンサーたちには、自分なりの答えを出すことによって「NAにつながったことを無駄にしないこと」の重要性をしっかりと認識するようになっていった。

はじめてクリーンで90日が過ぎたころに、ぼくはボストンエリアサービス委員会のミーティングに2回出席したのだけど、頭が混乱してしまった。NAの集まりとは、とても思えなかつたんだ。そこは論争の場で、駆け引きあり、見栄の張り合いあり、口論あり。だから当然、イスの投げ合いもあった。ぼくは俄然、興味がわいて、この場をビシっとうまく収められるような人物になりたいと思った。これじゃ、何もかも台無しじゃないか。ここに集まっている連中には、それがわからないんだろうか。サービスの精神がないとまでは言わないが、ぼくの心には届いてこなかった。

そのことを文句たらたらでスポンサーに報告すると、しばらくしてからスポンサーは（25歳の誕生日を迎えたばかりで、NAでもはじめてハツタリではない赤いキータグを手にしたぼくを）ニューイングランドリージョンの集いに連れて行ってくれた。あの日のことでは、忘れられないことが2つある。ひとつは、一冊の本。これは、知る人ぞ知るという有名な本だ。でもぼくは、これがNAのフェロウシップ承認文献ではないことも、南北戦争時代の意志決定機関のために軍の将軍によって書かれた本だということも、そのときにはわからなかった。将軍の名は、あのロバート・E・リー。つまり、この本はリー将軍による議会規則だった。読んだ後でムカムカしてきて、NAのようなスピリチュアルな仲間の集まりにはこんなに大量の「決めまり」が存在する余地はないと思った。すでにおわかりだろうが、ぼくはのらくらしてたわりにはあつという間にしっかりとモノの考え方ができるようになっていたんだ。

もうひとつ、あの日のことで忘れられないのは、ある仲間のことだ。ぼくみたいにすぐ使っ

**毎週、毎週、  
ホームのミーティングで、  
ひたすらわかちあった**

やう奴だったのに（アディクト同士ってなんとなくわかるんだよね）、どうにかして変わったんだ。それこそが回復のなせる技だったのだけど、当時のぼくにはそういうことが考えられなくて手品をみるような気がした。この仲間は立ち上がると、調査結果や、実にさまざまな見解、データ、数字などを交えて、集会に集まった人たちに発表を行った。その手際の良さもさることながら、自分たちの委員会が取り組みを軌道に乗せるために行ってきたことを余すところなく伝えようとする熱意には心

## 生まれたばかりの娘が くしゃみをし、 しかめっ面をして・・・

打たれたし、だからこそ、集会に集まった人たちも全員一致で賛同したんだ。マサチューセッツなまりによるとこが大いにしても、この仲間は見た目も話しぶりもケネディそっくりで、たまげたよ。同じジャンキーなのに、こんなふうになんかこともおそろかにせず心を込めて忍耐強く行っていく人間になれるんだと思うと、ただただ驚くばかりだった。この仲間による動議が可決されたことで、あの日をもってニューイングランドリージョンでは866、NAHelpUという電話サービスの回線が利用できるようになった。そしてぼくは（リー將軍による議会規則なるものに）憤りを感じると同時に、ひとりのアディクトが自分の信じていることに傾ける情熱に尊敬の念を抱いて会場を去った。どちらの感情もぼくをやる気にさせてくれた。それからのぼくは、このすばらしい仲間の集まりのために尽くすことによって学び続けるようになったんだ。

それ以来ずっと、エリア（もっぱら地元であるノースイーストマサチューセッツ）でもリージョンでも、H & I（病院施設）やP I（広報）の活動をはじめ、政策と指針づくりに加わったり、議長を努めたりしたほか、アウトリーチとオリエンテーション、コンベンション、フェローシップディベロップメント、RCM、RDなど、さまざまなかたちでサービスに関わってきた。ぼくのことを拒んだことのないNAに対して、できないと言うことなどまじりなかった。こうしてサービスに関わることは、いつもぼく自身のためになってきたのだから、何らかのかたちでほかの仲間たちのためにもなれたことを願うばかりだ。もちろん、長年にわたってぼくの歩みを進めさせてくれたのはサービスだけではない。一つ一つ挙げていけばきりが無いが、それでもぼくの回復のなかで何度となくしみじみ振り返るに値するできごとを、ここで話しよう。

グリーンになって2年もしないころのことだ。ぼくはフロリダにいて、クソリを使わないで人生を楽しむことを学んでいた。ジェットコースターに乗って、ウォータースライド（プールの大きな滑り台）を滑り降り、ジャグジー（泡風呂）でちょっと一息つき、女の子たちの品定めをして、当時のスポンサーや親しい仲間と葉巻をくゆらせる。そんなある日、ぼくの電話が鳴った。親父からだった。親父はぼくに「人、場所、ものごと」だったので、そのころにはすっかり疎遠になっていた。ぼくが元気でやっていることを知らせるためにミーティングに行く途中でちょっと立ち寄ることはあったが、そのときはいつも回復の道に行く仲間たちと一緒にだったし、それ以外の目的でこちらから連絡することはほとんどなかった。親父は、フロリダでのバカンスがどんな様子かたずね、あたりさわりのない話をしていて、そのうち声を震わして「ジェームソン（子どもの頃から、親父はぼくをこう呼んでいた）、おまえが家に帰ってきたら俺もそのミーティングとやらと一緒にいけないかな」と言うじゃないか。ぼくは「もちろんだよ、父さん」と答えたものの、電話を切ってからパニックになり、そばにいたスポンサーに「どうしよう」と言った。すると、「ミーティングに連れてってやれよ」の一言。「連れてって、どうするんだい？」と聞くと、「おまえの知ってる仲間や、大切な仲間や、尊敬している仲間を紹介してやって、あとは親父の好きにさせるんだな」と、またもや簡単に言うのだった。

ぼくはスポンサーから言われたとおりにした。親父は、一月ほどいろんな状態でミーティングに参加してから解毒施設に入った。2003年の1月3日以来、もう10年以上もグリーンでいる。親父は、ぼくらのエリアで3年間副議長を務め、このあいだの選挙で議長に選ばれた。これまでに何人もの仲間のスポンサーをした。ぼくと親父はホームグループを同じくし、ステップや伝統のこと以外にも、父と息子が関われることなら何でも語り合う。こうしてナルコティクス アノニマスという仲間の集まりは、ぼくが子どものころからずっとほしくてたまらなかつた父親らしい父親を与えてくれた。ほんとうに、ありがたいよ。だからこそ、ぼくはNAのために尽くしたいんだ。

そして親父が解毒治療を受けていたころ、スポンサーが同じ仲間とその奥さんが、ぼくのお見合いデートをお膳立てしてくれた。といっても、マジにつきあうわけじゃなく一夜かぎりの関係となるはずだった。あのころのぼくは、そういうつきあい方が気に入っていたんだ。ところが、ほんの数ヶ月して、相手の女性から妊娠したという電話があった。ぼくはすっかり怖じ気づいて頭が働かなくなり、恐ろしいことしか考えられなくなってしまった。そして次から次へとわき上がる恐怖

を、毎週、毎週、ただひたすらホームグループでわかちあった。どのみち自分はダメな父親になるのがおちだし、どうやっても自分には子どもなんて育てられないし、避妊してるだなんて嘘をついた相手に腹が立って仕方がないと、まあ、どこまでいっても自分のことばかり心配していた。ホームの仲間たちは、

こういうことがあってもぼくに優しくしてくれたし、最後には、ぼくが逃げも隠れもせず、相手をベッドに誘ったときになりすましていた人間になる方法を教えてくれた。その年の10月22日、ぼくは分娩室にいて娘が生まれてくるのを見守った。生まれたばかりの娘はくしゃみをし、しかめっ面をして、信じられないほど小さな手足を伸ばしながらアイスクリストのポーズをとる。まるで「さあて、生まれたはいいけど、世の中はどうなってるのかしら？」といゆんばかりだった。あの日、今もってはいきりと言葉にはできない何か、変わった。それは心の奥底にある何かで、それが変わったことで、ぼくはもうそれまでやってきたように身勝手なことを続けることはできないのだと（頭でわかるのではなく）骨身に伝えた。

ぼくはせっせとステップワークに取り組んだ。スポンサーには何もかも正直に話すようになった。回復という変化の過程に猛然と踏み込んでいったことで、ぼくも今ではいっちょまえの父親になっている。娘は、ぼくの親友で、ぼくの美しい小さな天使だ。そろそろ10歳になるが、ぼくがハイになっているのを見たこともないし、今も見ないですんでいる。ナルコティクス アノニマスがあって、本当によかったよ。娘の母親とは正式に結ばれることはなかつたけど、長い間に友情が深まったし、関係がぎくしゃくしているときでも分担しあって娘を育てた。仲間がいてくれなかつたら、こんなことはとても不可能だったと感謝している。だから、ぼくはNAの役に立ちたいと思うんだ。

これまでのぼくは、NAのために尽くしているときには必ずといっていいほど生きる目的と方向をしっかりと感じとれた。ぼくが学んだこと、出会った人たち、経験したこと、成長の歩みは、必ず愛に立ち戻らせてくれる。ぼくはナルコティクス アノニマスを愛しているが、どれだけ言葉を尽くそうとも、ぼくの感じる感謝の深さはとうてい表すことができない。だからこそ、サービスに尽くすのだ。

ジェイミー・V（アメリカ合衆国／マサチューセッツ）



# ラテンアメリカで NAの愛に 包まれる

1998年、ラテンアメリカのNAはインターネットのおかげでひとつにまとまりました。当時のことを、なつかしく思い出すメンバーは少なくないでしょう。あのころ、わたしたちはインターネットでおしゃべりすることで心を通わせたのです。2002年にコロンビアのカタルヘナでN Aワールドコンベンションが開かれたときに出会うまで、さまざまなリージョンのメンバーが何人かでインターネットによるミーティングを共有しながら一体性という絆を深めていきました。初めて顔を会わせたときのうれしさときたら大変なもので、わたしたちは近寄ってハグを交わしながら、パナマ、ニカラグア、ガテマラ、コロンビア、コスタリカ、プエルトリコ、ホンジュラス、ペルーの仲間たちとの出会いに胸を躍らせたのです。そしてこれを皮切りに、わたしたちは出会いの場を広げていくことになりました。

あれから何年も経ちましたが、わたしたちは2年おきに国代わりで祝うコンベンション（言うなればC L N A、ラテンアメリカN Aコンベンション）を開いてわかちあいを続けています。ラテンアメリカの国々では、この仲間の集まりの愛が日増しに深まっています。わたしたちはコンベンションに参加する仲間というだけではありません。いろんな状況を共有しながら、場合によっては人生を決定するようかなり大変な時期であっても、苦しいときにこそ絆を深めていくことで心の友となっているのです。

2000年にはラテンアメリカで、それもわたしたちの住む街であるコロンビアのカタルヘナで、はじめてN Aのワールドコンベンションが開かれました。このとき、わたしは妹と実行委員会に参加してサービスに関わりました。そして開催があと2ヶ月に迫り、みんなで一心不乱に開催準備を進めているなかで、父が亡くなったのです。あのとき、世界中の仲間たちがわたしと妹に心を寄せて支えになるうとしてくれたので、わたしたち二人はN Aの愛に包まれていると実感しました。わたしも妹も、サービスに関わることで仲間と心を通わせることができたから、痛みを乗り越えられたのです。

2009年には、C L N Aに参加するため、わたしは夫といっしょにベネズエラのカラカスへ向かい、その途中のコロンビアとベネズエラの国境でオートバイの事故に遭ってしまいました。このとき、足を骨折して道の真ん中に横たわっていたわたしのところへ、コンベンションの会場でわたしたちの到着を待つ仲間たちから、次々と電話があり、Eメールもたくさん送られてきたのです。夫はリージョン代表なので現地に行ってサービスに関わりたいたいということもあり、

わたしが手術を受けていったん家に落ち着いてから、コンベンションで自分の責任を果たすために現地向け向きました。わたしの足は車いすや杖を使って回復するまでに3年かかりましたが、その間にはやはり、仲間たちがずっと力になって支

えてくれたのです。

2012年には、わたしたちのリージョナルコンベンションがカタルヘナで開かれ、わたしは実行委員のまとめ役となり、夫はイベント責任者を務めました。このときはコンベンションの最中に、わたしの姉（やはりN Aメンバー）が、病院に入院してしまいました。あの夜、わたしはものすごく感情が高ぶっていました。姉が入院して心細いといっても、わたしの目の前では、800人を超えるアディクトたちが回復を祝いながら踊りまくって人生を楽しんでいるじゃありませんか。わたしは泣きながらハイヤーパワーに感謝しました。だって、わたしはひとりぼっちじゃありませんでした。回復の道を歩むアディクトと心の通う仲間たちに囲まれていたのです。

日曜にリージョナルコンベンションの閉会式が行われるなか、わたしのところに病院から連絡が入り、姉が集中治療室にいれば、コンベンションが終わって病院にかけつけるわたしに付き添ってくれた仲間たち療室に移されたこと知らされました。このときもわたしは、いつでもどこでもミーティングを開いてわたしの痛みを和らげちの愛に包まれていました。それから1週間して、姉はなくなりました。でも、わたしには支えてくれる仲間たちがいてくれたから痛みが和らいだのです。そのことに、わたしは心から感謝しました。

このようなことが続いたため、わたしはコンベンションに参加しようとする必ず人生に何かが起こると思うようになりましたが、だからこそ、これはハイヤーパワーの意思だと言わずにはいられてきました。

2013年の6月には、コロンビアリージョナルコンベンションが30回目を迎えることになっていました。そして会場に向かう二日前に、わたしの夫は心臓発作を起こしたのです。こんなことになるなんて、信じられませんでした。夫は、ベッドでありあらゆる医療機器につながれたまま言ったのです。「コンベンションに行かなくちゃ。こんな大きなお祝いを欠席するわけにはいかないよ」。火曜になって、心臓カテーテルのために夫とわたしは救急車で別の病院に移動しました。わたしたちはどんな状況にあっても、熱意と感謝を忘れずにいたし、それこそが、N Aで学んだことだったので。金曜には、わたしたちは家に戻りました。それから、飛行機でコンベンションに向かうため、わたしは翌日の便を探したのです。どうしてそこまでするのか、アディクトでない人々には理解できないでしょうね。でも、わたしたち二人には、この30回目を祝うコンベンションに参加することがとても重要なことでした。だって、夫もわたしもこれまでずっとリージョンのしもべになってきたのだから、あの場にいることに意義があったのです。

N Aのコンベンションという必ず何かがあるので、参加するのをやめるべきだということは、最初からわかりきっていました。けれども、わたしはハイヤーパワーの思召しというものをようやく理解したのです。毎回、こういう状況になっても、仲間たちがそばにいてくれた。つまりN Aという仲間の集まりの愛に包まれていたのですからね。

それから、わたしたちはN Aの60周年を祝うためにフィラデルフィアで開かれたワールドコンベンションに参加したし、この間は、ラテンア

メリカリージョナルフォーラムの20周年を祝うために、ドミニカ共和国で開かれたC L N Aに出席しました。でも、何も起こらなかったのです。それはもちろん、いろんなことがありましたよ。わたしはNAの仲間たちと交わり、いろんなアディクトたちと出会いました。そしてラテンアメリカの代表たちと会って、3日間にわたって一つの部屋で一緒に取り組みながら、苦しんでいるアディクトのためにこのようなプログラムのことを知らないでいる国や地域にメッセージを運んでいこうと、心をひとつにしたのです。そしてまた、わたしにとってサービスは、このような素晴らしいプログラムから与えられたことをお返しする方法でもあるのですから、これまでのいささつを話して心からの感謝の気持ちをわかちあわせてもらいました。

わたしはこれからもコンベンションが開かれるたびに参加してハイヤーパワーを身近に感じてほしい。ハイヤーパワーはわたしのために考えてくださるし、わたしは進んでその考えに従っていくつもりです。今日だけ、わたしの人生は何もかも申し分なくすべてうまくいくということがわかります。それも、ナルコティクス アノニマスのおかげですね。

ルーシー・G（コロンビア／カタルヘナ）

## 古巣に足を運ぶ

この話は祈りから始まる。おれがエゴを捨てて話せるように、どうか力をお貸しください。

1965年のことだ。18歳でいっばしのアディクトになりつつあったおれは、リリッてもうろうとしているあいだに人を殴り殺してしまった。

おれは有罪判決を受けて5年の刑に服することを命じられ、嚴重警備の刑務所で暮らすことになった。ここは、カリフォルニア州でも評判の悪さではピカイチだろう。そんなところにいりやアディクションも進行するし、おれは筋金入りの男になっていった。1972年に仮釈放になってからも、アディクションと犯罪によるおきまりの道をたどり続けた。

それから1976年の4月29日に至るまで、がむしやりに突き進んだ。その歯車が狂い始めたことで、おれは初めてN Aのミーティングに参加していた。これならなんとかなると、回復について熱心に教えを乞うようになるまでにさほど時間はかからなかった。そういうおれの前に、回復の道具を一式携えて導いてくれる仲間たちが現れた。その道具のなかに、与えるという贈り物があったのだ。この贈り物を自分のものにするには、病院や施設のサービスがすごく役立った。それからの15年間に、おれは拘留所や精神病院や刑務所を回れるだけ回って自分の回復の経験をわかちあった。そして、いつか自分が服役していた刑務所にもメッセー

ジを運びに行くことを夢見ていたが、矯正局の方針に変更が生じて、おれは閉め出されてしまった。殺人罪の判決を受けた者は、H & I（病院施設）のパネルメンバーであっても閉鎖された施設への入室を禁じられてしまったのだ。

時が経つにつれて、古巣にメッセージを運ぶという望みはとてものかないでもないものになっていった。それから20数年して、おれはパネルメンバーとなって参加してほしいと、ニューメキシコ州の刑務所から招かれた。その役目を果たした週末に、アルバカーキーでNAのコンベンションがあった。コンベンションのディナーでカリフォルニアからきた仲間と出会い、会話が弾むうちに、おれはニューメキシコの刑務所にメッセージを運びに行った話をしていて、おれがわざわざニューメキシコの施設まで出向いたわけを話すと、その仲間は、おれが古巣の入室許可を得る助けになれるかもしれないと言ってくれたのだ。この仲間のスポンサーが、おれの古巣である刑務所のH & Iパネルの議長だったので、この仲間もずうっとその刑務所へのメッセージに参加していたらしい。それからまもなくして、おれのこと、古巣にNAのメッセージを運びたいというおれの願いは、その刑務所の副所長の知るところとなった。そして例外が認められ、おれはパネルメンバーとなって入室を許可されたのだ。

40年してから刑務所の正門をくぐるという経験についちゃまだほかにいろいろと話せることがあるが、おれがここで話したいのは、塀の中にあるミーティング場に足を踏み入れることについてだ。この日がくるのを30年以上も夢見ていたのに、いざとなるとおれにはまったく心の準備ができていなかった。そこには、まさに回復によるざわめきがあった。まるでNAのコンベンションに行ったようだった。刑務所の敷地内にただようあの張り詰めた雰囲気は、ミーティング会場のドアのところで消えてしまった。さすがに、このような回復の聖域を侵すことはできないようだった。会場には、年齢も人種もまちまちな男たちが150人ほど入り乱れて話をしていて、回復の道を行くアディクトが大勢集まる場所では経験したことがないようなエネルギーが充満していた。NAは健在だ。いや、騒がしいのなんのって、おれの想像や思惑を遙かに超えていた。

この日、はじめて刑務所の敷地を抜けてやってきた6人は、新入りということで熱狂的な歓迎を受けた。おれたちが回復の雰囲気として知っているものが、まぎれもなくその部屋にはあった。気もそぞろでつまらなそうにしている者など、ひとりも見あたらなかった。みんな、回復したくてたまらないようだった。それはもう普通ではなかった。ミ

ーティングが終わると、男たちは生気にあふれて愛想がよかった。おれはこのミーティングに参加して、いつにもましてくつろいだ気持ちになっていた。すっかり溶け込んでいたんだ。そして、ミーティングの後で話をした男に心を揺さぶられた。この男は、今も刑期をつとめている。塀の外に出ることはかなわない身なのだ。それでもNAに参加しているのはどうということなのか、と聞いてみた。この男の望みは、ほかの男たちのように塀の外で幸せに生きることじゃない。塀の中で、今を幸せに生きることなんだ。まったく、恐れ入ったよ。

おれは、ナルコティクス アノニマスの仲間たちにメッセージを手渡すことをこの上ない喜びとしているし、サンフランシスコ湾のそばにある「バステューユの牢獄」\*ではアディクションからの回復がとぎれることなく勢い

づいている。おれのNAに対する愛と感謝の気持ちは、古巣の仲間たちとわかちあうことによってことのほか深まった。自分を欺かなければ、H & I（病院施設）で役に立てるのだ。

（訳注）フランスの監獄。1789年7月14日、圧政の象徴として民衆に破壊され、フランス革命の発端となった。

アノニマス（アメリカ合衆国／カリフォルニア）

『リーチングアウト』2014年1月号より転載

## ベーシック・キャプション (ツボを押さえた ひとつ) ・コンテスト

ここに、みなさんがNA Wayマガジンに参加できる新企画をご用意しました。下にあるコミックのキャプション（短い説明文）を書いて送っていただくだけで、そのままキャプション・コンテストに参加できてしまうのです。みなさんのキャプションから傑作と思えるもの（1点とは限らないかもしれませんが）を選んで、次回のNA Wayマガジンに掲載させていただきます。そうやってNA Wayに名前がのるというのも、なかなかいいものでしょう。申し込みは、Eメールで受けつけています。宛先は [naway@na.org](mailto:naway@na.org)。件名は「ベーシックキャプション・コンテスト」とし、本文には名前と住所を必ず記入するようにお願いします。





## 『伝統』に関する書籍のプロジェクト最新情報

### 少人数のグループによる意見収集

『伝統』に関する書籍のプロジェクトは、2012年から2016年までの4年間に及ぶプロジェクトとして2012年のワールドサービスカンファレンスで承認された。これにより、まず2012年から2014年までの2年間は、こうすればNA全体で伝統を最も有効に活用できるという資料、意見、アイデアなどの収集にあてられ、次の2014年から2016年までの2年間は、草稿の作成とNA全体による見直しおよび意見提供にあてられる。こうして仕上がった草稿は、2016年のWSC（ワールドサービスカンファレンス）で承認をはかることになる。私たちは、これまでにさまざまなエリアやリージョンのワークショップにからだされた意見をいただいたことに気をよくし、さらに多くのメンバーがこのプロジェクトに気軽に関われるよう短時間のワークショップの形式をつかった。これについては、NA Wayマガジンの1月号と7月号に掲載することでみなさんの利用をうながしていくつもりである。

このように少人数のグループで話し合いを進めていくというやり方なら会話も弾みやすいので、ホームグループやメンバー同士で集まって経験と力と希望をわかちあうチャンスにしたい。その際に、議題としやすいような質問を次のページに記してあるが、このような質問から外れた意見がとびだすこともあるとしても、それもまた、みなさんの意見としてぜひ提供していただきたい。

### 話し合いの段取りをつける

まず、信頼されるしもべを1人か2人、話し合いの進行役に選ぶ。あらかじめここに掲載した資料を読み返してからミニ・ワークショップを計画するにすれば、話し合いの進行がもたつくことはないだろう。このワークショップでは毎回、ひとつの伝統に焦点を当てる。どの伝統について話し合うかはグループで選んでもよいし、進行役に決めてもらってもよい。10～11ページにあるワークショップの概要には、各伝統ごとにNA文献にもとづいた簡単な注釈や議題などが盛り込まれている。話し合いの際には『ベーシックテキスト』と『なぜ、どのように効果があるのか』とともに、12ページにある「12の伝統のサマリーシート（12の伝統の要約集）」も持参すると役立つかもしれない。このワークショップの概要は、20分間のグループ・ディスカッションを対象とするものだが、実のある話し合いができるように内容を手直してもかまわない。どのぐらいの頻度でワークショップを開くかはグループに任される。場合によっては、2014年を通して月に一回の開催とすることもあるだろう。いつワークショップを開くかも、自分たちの都合次第で決めればよい。ミーティングの前後、スポンサーたちと一緒に、サービスミーティングの一部として、あるいはサービス委員会の前後など、集まる機会はいくらでもあるだろう。また、話し合いをするにあたってだれかに議事録を作ってもらったり、話し合いの終わりに個々のメンバーが考えを書きとめる時間をつくったりするのもよいかもしれない。

話し合いのまとめをワールドサービスに送るときには、グループでひとまとめにして送っていただくか、メンバーが個別に送っていただくようお願いする。これを簡単にすませたい場合には、手書きの意見を写メールにして worldboard@na.org へ送信していただいてもよい（ただし、読みやすさを心がけていただくようお願いする）。なお、この各伝統に関するミニワークショップの概要は、[www.na.org/traditions](http://www.na.org/traditions) で入手可能になっている。

Traditions Book



Project

## 話し合いをすすめるための おすすめの形式

ここに紹介するワークショップは20分間にわたる話し合いのためのものだが、グループの状況によっては話し合いの時間を短縮したり延長したりしてもよいだろう。質問は、あくまで話し合いの第一歩としていただくためのものにすぎない。活発で刺激に満ちた話し合いがされることで、これまでとは違う側面から伝統を理解し合う試みになるようお願いしている。

- ◆ テーマとする伝統を選ぶ。
- ◆ はじめに黙想してから、『平安の祈り』もしくはグループで決めた祈りを唱える。
- ◆ 書記を担当するメンバーを決め、グループのメンバーがわかちあうユニークな経験やアイデアをしっかりと書きとめてもらう。スピリチュアルな原理や文献の引用による一覧表とはまったく別物になるはずだ。
- ◆ ひとりのメンバーに、テーマとなる伝統とワークショップの形式に関する説明文を読んでもらい、もうひとりのメンバーには「12の伝統のサマリーシート（12の伝統の要約集）」にある伝統の抜粋を読んでもらう。
- ◆ 必要に応じて、別のメンバーにNA文献からいくつかの段落を追加で読んでもらう。
- ◆ 議題をひとつ選ぶ。または、議題を抜きにして自由に話し合ってみるのもよい。
- ◆ できるだけ多くのメンバーに経験やアイデアをわかちあってもらおう。進行役は、メンバーたちに考えを明確にしたり補足したりするように求めてもよいが、解釈について議論するまえに全員がわかちあえるようにしてあげよう。
- ◆ 決められた時間で話し合いを終えるようにしよう。ただし、メンバーたちにもっと話し合いたいという熱意が残っているなら、堅苦しく考えずに続行してもいいし、次の議題に進んでもいい。さもないければ、「ミーティングの後のミーティング」で議論を続けてもいいだろう。
- ◆ みなさんのメモ書きは、写メールにして worldboard@na.org へ送信、www.na.org/traditions にあるアンケート用紙に記入、あるいはNA World Services; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409 まで郵送と、いずれかの方法で提供していただくようお願いする。

各伝統に関するミニワークショップの概要は、以下のサイトで入手可能です。

[www.na.org/traditions](http://www.na.org/traditions)

みなさんのフィードバックやアイデアは、以下のアドレスにお寄せください。

[worldboard@na.org](mailto:worldboard@na.org)

ご協力に感謝いたします！

## 伝統 7

自立という原理は金銭の問題を抜きにしては実行できないが、だからといって、献金するだけでも追いつかない。第一の目的を達成するために必要なことはすべて、グループが自分たちで揃えなければならないからだ。グループのサービスと、グループに積極的に関わるメンバーたち、という二つの柱が、グループが自立するために欠かせない貢献だ。そしてこのような貢献には一銭もかからない。

.....

### 議題

- ◆ 自立へのこだわりは、どうしてそんなに重要なのか。
- ◆ 私たちが自立しようと努力することは、一体性にはどのように貢献するか。
- ◆ 外部からの寄付を受けずに経済的に自立していると言い切れなくなってしまった場合、私たちはどうやって解決をはかるのか。

## 伝統 8

NAメンバーはNAのメッセージを有効に運ぶために専門家の資格を取る必要はない。このことを、わたしたちは伝統8によって再確認する。アディクションから回復するためのNAの方法の核心は、一人のアディクトがもう一人のアディクトを手助けすることだ。私たちは回復を商売にしていない。愛と感謝の精神の中で、回復をだれとでも自由に分かち合っている。だが、ナルコティクス アノニマスのグループ、サービスボード（サービスの役員会）、コミティ（委員会）は、その責任を果たすために、専門職の助けを必要とする場合がある。

.....

### 議題

- ◆ 専門家の場合と、専門家ではない場合とで、アディクトへの接し方はどう違うのか。
- ◆ 専門職についているメンバーが、仕事に関わっているアディクトたちとミーティング場で会ったときにメンバー同士として接するには、どうしたらいいか。
- ◆ 伝統8とアノニシティ（無名にとどまること）には、どのような関係があるのか。and anonymity?



## 伝統9

とにもかくにも、ものごとを複雑にないということが、この伝統の趣旨である。だから、NAそのものは組織化されることはなく、NAのグループに役立つためのサービス機関やコミティをつくることのできるというのは、あくまで「NAがメッセージを運ぶことに対して一貫してシンプルで直接的な働きかけを続ける」ためである。このような伝統を機能させるには、コミュニケーションが鍵となる。それによって、私たちの第一の目的に対する責任感が共有されるからだ。

.....

### 議題

- ◆ 私たちがサービスの機関や委員会を必要とするのは、何のためなのか。
- ◆ グループと、グループに必要なことを任されるボード（役員会）やコミティ（委員会）とが、効果的なコミュニケーションをとり続けるにはどうしたらいいのか。
- ◆ 伝統9と私たちの第一の目的との関係について、話し合ってみよう。

## 伝統10

NAメンバーは、自分で考え、自分なりに見解を広げ、自分の意見を言った方がいいと思ったときには、伝えていくことができる・・・とはいうものの、仲間によっては論争を招くようなことを話し始め、ミーティングが第一の目的からそれる場合が多いことも十分承知している・・・こうして全体の福利を守り、第一の目的から焦点を離さずにいれば、回復への関心をそらすような論争は避けられるはずだ。

.....

### 議題

- ◆ NA以外のことで私たちの回復にかかわることをわかちあう場合、NAのミーティングがNAの第一の目的からそれてしまわないようにするにはどうしたらいいのか。
- ◆ クリーンになることに関して、NAはどのような見解を持っているか。
- ◆ 公の場で発言する場合、どうすれば論争にもつれこまないでNAのことを説明できるか。

## 伝統11

伝統11は、NAの広報活動方針のよりどころとなっている。広報活動をNAにかなった方法で行うなら、それは宣伝ではない。私たちが必要としている人たちに、NAに関心を持ってもらうためのものだ。NAの回復やNAという集まりについて人の目に映るのは、私たちが話すことであり、私たちがとる行動だ。責任あるNAメンバーとしては、人の目に映った自分の姿が魅力あるもので、NAの妨げになるものではないことを願うばかりだ。

.....

### 議題

- ◆ 広報のサービス活動をする場合、私たちはどうやってNAの評判を傷つけないようにしているか。ソーシャルメディア（インターネット上で情報の提供、交換、共有ができるサービス）を利用する場合や、NAのTシャツを着てコーヒーショップに立ち寄りたりする場合のことも、考えてみよう。
- ◆ ソーシャルメディアを利用する場合、私たちはどのようにして自分のアノニミティを保っているか。
- ◆ 新聞、電波、映像の分野で私たちが個人名を伏せることは、なぜ、NA全体にとって重要なのか。

## 伝統12

NAの伝統は1から12まで、NAメンバーが個人に頼らず、スピリチュアルな行動指針によって全体から導きを得ていることを表している。このように無私の心を持つことが、伝統12が伝える「無名であること」の意味である。ナルコティクス アノニマスは、このスピリチュアルな基盤の上に成り立っている。

.....

### 議題

- ◆ NAでは「個人よりもNAの原理を優先される」のであれば、NAメンバーという立場で私たちが個性を発揮する場面はあるのか。
- ◆ 「スピリチュアルな基礎」とはどのようなもので、どうやってよりどころとするのか。
- ◆ アノニミティ（無名にとどまること）と「私たちの共通の福利」との関係は、どのようなものか。



# The Twelve Traditions of NA

First Tradition

*Our common welfare should come first; personal recovery depends on NA unity.*

Our First Tradition concerns unity and our common welfare. One of the most important things about our new way of life is being a part of a group of addicts seeking recovery. Our survival is directly related to the survival of the group and the Fellowship. To maintain unity within NA, it is imperative that the group remain stable, or the entire Fellowship perishes and the individual dies.

Second Tradition

*For our group purpose there is but one ultimate authority—a loving God as He may express Himself in our group conscience. Our leaders are but trusted servants; they do not govern.*

Our direction in service comes from a God of our understanding, whether we serve as individuals, as a group, or as a service board or committee. Whenever we come together, we seek the presence and guidance of this loving Higher Power. This direction then guides us through all our actions. [...] When we choose a member to serve us in some capacity, we exercise mutual trust.

Third Tradition

*The only requirement for membership is a desire to stop using.*

The Third Tradition encourages freedom from judgment. It leads us on the path of service toward an attitude of helpfulness, acceptance, and unconditional love. [...] Addiction is a deadly disease. We know that addicts who don't find recovery can expect nothing better than jails, institutions, and death. Refusing admission to any addict, even one who comes merely out of curiosity, may be a death sentence for that addict.

Fourth Tradition

*Each group should be autonomous except in matters affecting other groups or NA as a whole.*

Each group does have complete freedom, except when their actions affect other groups or NA as a whole. If we check to make sure that our actions are clearly within the bounds of our traditions; if we do not dictate to other groups, or force anything upon them; and if we consider the consequences of our action ahead of time, then all will be well.

Fifth Tradition

*Each group has but one primary purpose—to carry the message to the addict who still suffers.*

What is our message? The message is that an addict, any addict, can stop using drugs, lose the desire to use, and find a new way to live. Our message is hope and the promise of freedom. When all is said and done, our primary purpose can only be to carry the message to the addict who still suffers because that is all we have to give.

Sixth Tradition

*An NA group ought never endorse, finance, or lend the NA name to any related facility or outside enterprise, lest problems of money, property, or prestige divert us from our primary purpose.*

Within the limits established by Tradition Six, we have tremendous freedom to carry the message of recovery and help other addicts. We have clear boundaries set by our identity as Narcotics Anonymous. When we take care to observe those boundaries, our outside relationships enhance our ability to carry the message to the addict who still suffers rather than diverting us from our primary purpose.

Seventh Tradition

*Every NA group ought to be fully self-supporting, declining outside contributions.*

By encouraging our group to pay its own way, the Seventh Tradition gives our group the freedom to share its recovery as it sees fit, not obligated to outside contributors. Further, it gives our group the freedom that comes from inner strength, the strength that develops through applying spiritual principles.

Eighth Tradition

*Narcotics Anonymous should remain forever nonprofessional, but our service centers may employ special workers.*

In this tradition we say that we have no professionals. By this, we mean we have no staff psychiatrists, doctors, lawyers, or counselors. Our program works by one addict helping another. If we employed professionals in NA groups, we would destroy our unity. We are simply addicts of equal status freely helping one another.

Ninth Tradition

*NA, as such, ought never be organized, but we may create service boards or committees directly responsible to those they serve.*

NA groups join together, combining their resources to create service boards and committees that will help them better fulfill their primary purpose. Those boards and committees are not called to govern NA; they are called, rather, to faithfully execute the trust given them by the groups they serve.

Tenth Tradition

*Narcotics Anonymous has no opinion on outside issues; hence the NA name ought never be drawn into public controversy.*

There are a great number of addiction-related issues that others might expect a worldwide society of recovering drug addicts to take positions on. [...] Our answer, according to Tradition Ten, is that our groups and our fellowship take no position, pro or con, on any issues except the NA program itself. [...] For our own survival, we have no opinion on outside issues.

Eleventh Tradition

*Our public relations policy is based on attraction rather than promotion; we need always maintain personal anonymity at the level of press, radio, and films.*

The existence of a public relations "policy" implies the importance of a public relations "program" in carrying out our fellowship's primary purpose. [...] As NA groups, service boards, and committees, we deliberately and energetically cultivate good public relations, not as an incidental result of our normal activity but as a way to better carry our message to addicts. [...] Public anonymity helps keep the focus of our public relations on the NA message, not the PI workers involved.

Twelfth Tradition

*Anonymity is the spiritual foundation of all our traditions, ever reminding us to place principles before personalities.*

Anonymity is one of the basic elements of our recovery and it pervades our Traditions and our Fellowship. It protects us from our own defects of character and renders personalities and their differences powerless. Anonymity in action makes it impossible for personalities to come before principles.



# フェローシップ ディベロップメント：

## 可能性の宝庫

### 「こうすればいいんじゃないか」

ミネソタでは、さまざまな経路でアイデアが浮上してくる。もともと、CSRからASC、RCM、リージョンへと順を追って伝わるようになってはいるが、情報伝達の技術的な進歩によってNAの中からも外からもさまざまなアイデアがもたらされるようになったのだ。「ブリッジング・ザ・ギャップ（架け橋になる）」というプログラムが、そのよい例である。これは、AA（アルコールクス アノニマス）で提供されているプログラム（新しいメンバーや施設を出たばかりのメンバーのために、一時的なつなぎ役となるサービス）になり、NAでも同じようなサービスを提供してもらえないかと治療機関や矯正局の専門家たちから要請があったことで生まれたプログラムである。改革といっても、とくに手間も費用もかかるわけではないのだ。そのことをまざまざと見せつけてくれる例を、さらに2つほど紹介しよう。

**Narcotics  
Anonymous  
Minnesota Region**



ひとつめは、RSCによる公開フォーラムのあり方を再考することだ。ミネソタでもやはり、このようなセッションはほとんどの場合が補足的にRSCのアジェンダ（議事日程）の最後に回されているので、結局は時間が足りなくなってメンバーたちは帰り支度で気もそぞろになり、尻切れトンボに終わってしまう。けれども、プロジェクトによるシステムをうまく機能させるには、しっかりと議論を深めることがどうしても欠かせない。私たちはこれを機に「あらゆること」を見直していこうという気になり、その結果、公開フォーラムはアジェンダの筆頭におくべきだということになった。そうすると、はずみがつく。次は、対等な立場で参加してもらうために教室のイメージをなくそうと、イスを丸く並べることにした。こ

のような変化は一見ささやかではあるが、革新の例としては最もシンプルにして最も影響力のあるものひとつと言えるだろう。輪になって座ることによって、トップダウンという階層的な考え（上に立つ者が下の者に伝えるという感じ）を最小限に抑えられるため、全員に同じ仲間で、同じように歓迎され、同じように重要であると感じさせてくれる。革新は、ピカピカの新しいおもちゃでなければいけないわけではない。さりげない変化のなかにこそ、訴えるものがあるのだ。

ミネソタがプロジェクトを活動基盤とするリージョンに姿を変えたことにより、年に一回の集会は私たちの活動のなかで中心的な役割を担うようになってきた。ここ4年間にわたってもっとも人気のあるセッションの一つは、「こうすればいいんじゃないか」という課題で自由に意見を出し合うものだった。メンバーひとりひとりがサービス提供について視野を広げたり焦点を絞ったりして考えることができる。「こうすればいいんじゃないか」と話し合うことは、まさにメンバーたちの手によって革新の基礎を築くものになった。その実例を、3つほど紹介しよう。

- ・ ミネソタのミーティングに関する情報は14エリアで別々になっているけれど、リージョンで一括すればいいんじゃないかな。
- ・ だれもが必要に応じて閲覧できるように、エリアやリージョンの案内やチラシが随時掲載されるウェブサイトがあればいいのに。
- ・ 塀の中にいるメンバーのために、ミネソタのメンバーがスポンサーになれる機会をもっと増やすことができればいいのに。

革新を推し進めて私たちの貴重な資源を活用する道を開いていくには、アイデアが勝負となる。  
モンティ・J（アメリカ合衆国／ミネソタ）

## マルチゾナル サービスシンポジウム 感謝の気持ちを表すもの

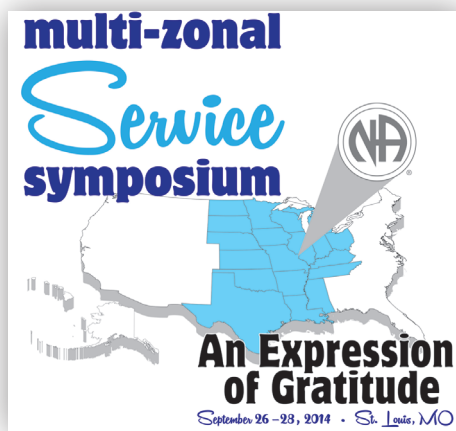
「ウェスタンサービスラーニングデイ（西部サービス研修会）」、「フロリダ サービスシンポジウム」、「ミッドアトランティック リージョナル ラーニングコンベンション（MARLCNA）」、「ゾナルウィークエンドワークショップ、NAワールドサービスによる「ワールドワイド ワークショップ（世界各地でのワークショップ）」、「リージョナル サービスアセンブリ。そして、アメリカ合衆国の中西部で（1992年から1996年までに）開かれた5つのリージョンによるサービス研修会。こうして私たちが刺激を受けたものをあげていけばきりが無い。どれもみな、「マルチゾナル サービスシンポジウム（MZSS、複数のゾーンによるサービスシンポジウム）」を思い立つきっかけとなり、構想を練るうえでお手本になってくれるものだった。アメリカ合衆国の中部では、このような週末に行われる大規模なNAのイベントはきわめてまれなものになっているため、定期的に開催されることなどありえないというのが現状だ。私たちは、MZSSによってサービスについて学び、わかちあうことで、とても無関心ではられないという雰囲気アメリカ中部にも生まれることを願っている。

MZSSに対する期待の高さや盛り上がり方はかなりのもので、それを目の当たりにすることができたのはすばらしいことだった。3つのゾナルフォーラム（ミッドウエスト、プレインズステーツ、サザン）のなかに25のリージョンがあるのだが、開催に票を投じた22のリージョンについては、その支持率が90パーセントを超えていた。さまざまなワークグループ（プログラム作成、商品販売、参加登録、宿泊施設、テクノロジー、美術やグラフィック処理など）の結成にあわせて、どのリージョンからももれなくサービスに関わるメンバーを募っていった。今のところ、集まったメンバーは3つのゾーンを網羅し、リージョン数でも3分の1を超えている。ワークグループではテレビ電話会議を利用するため、メンバーはみな、自宅から参加できる。移動の手間も費用もかけずに、何百マイルも離れた者同士が共同作業をしてこのようなイベントを企画しているのだ。今回のシンポジウムを企画してサービスに関わるなかでは、こういうことでもなければ出会うこともなかっただろうという仲間たちと知り合えたとし、深い友情も生まれた。

こうして遠く離れた地域にあるさまざまなサービス機関同士で行われていることは、共同作業の素晴らしい例になる。また、このようなイベントがあれば、信頼されるしもべたちも進行役や発表役をするチャンスが増え、私たちのサービスの基盤も絶えず広がっていくことにもなる。それがゆくゆく地元のNAに還元されるのだ。

NAのサービスに打ち込んでるメンバーたちの姿を目にするうちに、ほかのメンバーたちも無関心ではいられなくなるだろう。それによってグループやサービス機関が成長すれば、まだ苦しんでいるアディクトにNAのメッセージを運ぶという私たちの取り組みも後押しされるというわけだ。

私たちはこれまで、サービス研修のワークシ



ップがもたらす変化を目の当たりにしてきた。それはグループやエリア、リージョン、ゾーンのあり方にとどまらず、メンバーひとりひとりの回復にもみられるものだから、WCNAの雰囲気がいくぶん変わってきたこととも無縁ではないだろう。国内のそれぞれに異なる地域から集まったメンバーたちが、アイデアや活動の仕方を伝えあっているのを目にするのは素晴らしいことだ。そうやって、みんながあれこれと思いを巡らせるようになる。これで、自分たちのホームグループもしっかりしてくるだろう。自分たちのリージョンでも電話サービスを提供できるかもしれない。自分たちのエリアでは、午後いっぱいサービスをワークショップにあてて、夜には食事やわかちあいやダンスを楽しむというイベントを企画してもいいな。そうすれば、参加者は中身の濃い一日が過ごせるだろう。それに、ミネソタはずれにいるメンバーだって手紙という手段を使えば、カリフォルニアで塀の中にいるアディクトとステップワークができるはずだ。

これは夢物語などではない。現実の出来事なのだ。このマルチゾナル（複数のゾーンによる）サービスシンポジウムは、2014年9月26日から28日にかけてミシシッピ州のセントルイスで開催されることになっている。このシンポジウムを開催させるために（陰ながら、あるいは当日に）手助けをしてみたいというメンバーは、Eメール（[info@mzssna.org](mailto:info@mzssna.org)）で連絡がほしい。それ以外にも、ウェブサイト[www.mzssna.org](http://www.mzssna.org)に登録をすれば書面で申し込み手続きができるようになっている。

サービスに愛と感謝の気持ちを込めつつ  
MZSS ワークグループ  
MZSS Workgroup

## 確実に 実行する

### 伝統の話をする

わたしは、ヨーロッパ デリゲートミーティングのフェローシップディベロップメント（FD）委員会の要請により、ブルガリアでのFDをフォローアップ（続行）することになりました。そこで、このFDについて調べていくうちに、フォローアップをするなら12の伝統に関するものでなければならないとはっきりわかりました。わたしは、モルドバ（ルーマニアの東に接する共和国）にも参加してもらい、そこからなんとなくグループの輪が広がっていき、ブルガリア、モルドバ、ウクライナ、スイス、ドイツ、パキスタン、ケニア、カリフォルニア、ニューメキシコ、オクラホマのメンバーたちと、行動を共にすることになったのです。

このメンバーなら現代のテクノロジーを利用しない手はありません。そうすれば、行ったり来たりしないですむでしょう。これは初めての試みでしたが、とてもうまくいきました。わたしたちはインターネットによるテレビ電話会議によって12週間ぶつ通して話し合いをしたのです。そして、NAワールドサービスにも支援を要請したところ、『伝統』に関する書籍のプロジェクトの調整役を務めているスタッフが担当してくれることになりました。わたしたちは当初、毎週一つづつ伝統をとりあげていき、その際には毎回スピーカーをひとり頼み、話が終わったら質疑応答のセッションを設けるという考えでしたが、最初のテレビ会議で話し合ううちに、一つの伝統についてひとりで30分間話をするのはかなり大変なので、スピーカーは2人いた方がよいということになりました。そして、スピーカーも広範囲にわたって募ることにしたので、NAWSのスタッフメンバーやワールドボードのメンバーだけでなく、全米や、スウェーデン、ギリシャ、ニュージーランド、オーストラリアなどからも、クリンタイムが長く経験豊富なメンバーたちによる素晴らしい支援が得られたのです。みんなとても根気よく、わたしたちの用意した質問に一つ一つ丁寧に答えてくれました。それから、わたしはアメリカのゾナルフォーラムからも1名参加してもらうことにしました。ヨーロッパにおけるわたしたちのやり方を知ってもらうにはよい機会だからです。このほかにも、わたしたちは毎週のセッションを記録して、スピーカーの部分はCDで聞けるようにしました。

このようなタスクチームの一員になることでもたらされるさまざまな恩恵は、わたしにはとても言い尽くせないので、行動を共にした仲間たちにも経験をわかちあってもらっています（インターネット版のNA Way マガジンをごらんください）。わたし自身の回復にとってもさらに歩みを進める力になりました。ですから、みなさんにもそれぞれの目的に合うようなやり方でわたしたちの経験を繰り返し生かしていただければ、願うばかりです。

わたしたちは移動の費用をかけないで世界中から多くの仲間を呼び集めましたが、こうやってわたしたちをひとつにする絆がプロジェクトの間だけのものではなく、これからもずっと続いていくものになるように願っています。今回のような機



会を与えてくれたEDMと、支援を提供してくれたNAWS、そして今回の信じられないようなワークグループのメンバーやスピーカーのみなさん、どうもお疲れさまでした。わたしたち一同、心から感謝しています。

ヘルガ・B（ジャーマンスピーキングリージョン／リージョン代表）

# Tcontinues ザ・ジャーニー コンティニューズ (旅は続く)

## 国境のない結びつき ラテンアメリカ ゾーナルフォーラム

1993年4月29日。ワールドサービスカンファレンスが開催されるなか、NAワールドサービス（NAWS）の協力によってラテンアメリカのいくつかの国や地域からNAの代表が集まり、ラテンアメリカゾーナルフォーラムは結成に向けて第一歩を踏み出した。また、その年の11月12日～14日には、やはりNAWSが参加して第1回ラテンアメリカカンファレンスならびにコンベンションが開かれたが、ラテンアメリカから参加したNAは5つの国や地域にとどまった。

現在は、ラテンアメリカゾーナルフォーラム（LAZF）の定例会議が2年おきに開かれるようになり、メッセージ活動を中心にして、経験と力と希望のわかちあいや、現行のプロジェクトや新しいプロジェクトに関する報告が行われている。今年で第11回となるLAZFの会議はドミニカ共和国のポカチカで11月7日～10日に開かれ、LAZFに所属する25の国や地域のうち20の国や地域から代表が参加した。ちなみに、25という数字は今年の会議で変更された。最初の検討課題のひとつが、リオ・グランデ・ド・スル（ブラジル）リージョンによる議席の要請であったため、LAZFは今や26の国や地域から成ることになった。ラテンアメリカにある21の国々では7600を超えるNAMミーティングが開かれ、さらに広がりを見せている。

たとえば、キューバではグループ数が10になった。それを知って私たちは感無量であり、これからも歩みを止めずにもっと努力しようという気持ちになる。一方、ハイチではLAZFとNAWSとの間に協力関係ができたあとにNAMミーティングは週に2回であることは変わらないが、ドミニカのメンバーたちが、このミーティングを支援しようという気持ちになっていることがわかった。これで、私たちは「世界樹のアディクトがみな、自分の話す言葉でわかりやすく書かれたNAのメッセージを目にする機会に恵まれ、それが新しい生き方に踏み出すきっかけになること」を夢見て希望を失わずにいられるのだ。

私たちは、キューバとハイチでの活動を続けていくとともに、これからは新たにブラジルでもフェローシップディベロップメントの取り組みを行っていくことになる。また、今回は翻訳についても話し合い、『リーチングアウト』というニュースレターが8号つづけて英語からスペイン語へ翻訳され、それが今、ラテンアメリカでのH & I（病院施設）への取り組みに役立っているといううれしいニュースを伝えることができた。それ以外にも、『リビングク

リン：ザ・ジャーニー・コンティニューズ』の翻訳もいくつかの修正案が出そろっている。このようなことと、私たちの『インフォラティナ マガジン』（ラテンアメリカに関する情報誌）が13号発行されたことが重なり、ラテンアメリカゾーナルフォーラムは喜びと誇りで満たされている。

ラテンアメリカゾーナルフォーラムの会議は、どの瞬間をとっても刺激的なものだった。ラテンアメリカのさまざまなリージョンの信頼されるしもべたちによって、いくつもの取り組みの報告があった。たとえば、ウルグアイでは国の行政機関との広報活動を通してNAの60周年を祝っていること。ブラジルで行われているサービスに関するありとあらゆる取り組みのこと。パナマには、公共放送にコマーシャル枠が確保されていること。そして、どのリージョンでもNAで実行されるやり方が共有されていることなどだ。

また、私たちは今回、開催地であるドミニカのNAと共同で2年おきのワールドサービスカンファレンスに関するワークショップを開いた。この「共同作業」と「グループの良心」に関するワークショップは、どちらもワールドボードのメンバーとNAWSのスタッフの2名が進行役を務めてくれた。これは、LAZFとともに開催される「ラテンアメリカコンベンション」という回復を祝うイベントに参加している国々との交流をはかるために、またとないすばらしい機会となった。今回のLAZFには取り上げなければならない課題が山積みで、私たちは熱心に取り組むことになった。さまざまなアイデア、プロジェクト、サービスのあらゆる面でみられる伝統7の必要性などについて検討を重ねていった。そして、満場一致による意思決定になるように努めたことが、私たちの第一の目的を実現するために大きな助けになった。

最後に、次回のLAZFの開催地を決定する瞬間がやってきた。いくつものすばらしいプロジェクトに関する報告があったあとで、今回は2015年にパハソン（メキシコ）で開催されることがLAZFの良心によって決まった。あの夜、私たちは閉会となる日曜の朝4時まで働いた。ぐったりはしたが、それでも私たちは楽しみながらやり遂げようという気持ちで一丸となり、なんとか課題を検討し終えた……こうして、旅は続くというわけだ。

さて、ここで仕切り直しだ。NAが今までどおり「アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる」場であり続けるように、これからまた2年間、私たちは必死になって活動していくことになる。かつて私たちは、NAがあつてよかったと思った。それは、先につながった仲間たちがこうしてNAが存続するように尽くしてくれたおかげだし、だからこそ、私たちもこうして責任を全うしていくのだ。

LAZF 実行委員会

Click here to read more  
about the Traditions  
internet calls.

## アフガニスタンの成長

2014年の1月、アフガニスタンで3回目のフェローシップディベロップメントを行うべく、私たちは旅立った。私たちは今回、ヘラート市（アフガニスタン北西部の都市）で2日間に及ぶワークショップの進行役を務めた。ワークショップのテーマは、ビルディング・スロトング・ホーム・グループ（しっかりしたホームグループをつくる）、12の伝統、回復の雰囲気、サービス、12の概念、アフガニスタンリージョンの結成に向けたプランニングなど、実にさまざまであった。また、アフガン滞在の3日目と最終日に、私たちはパネルを結成して市内にメッセージを運び、その際に出会ったアディクトたちにできるだけ多くのIP（インフォメーションパンフレット）を配った。

1回目のフェローシップディベロップメントの旅では、ワークショップの出席者が55～60人。それが2回目の旅には100人となり、今回はおよそ200人だった。これはヘラート、カブール、マザーレシャリフ、ガズニから集まったメンバーたちである。アフガニスタンのNAメンバーの総数は、2012年にはおよそ400人であったが、現在では1000人ぐらいになっているだろう。このアフガンのメンバーたちは、リージョンをつくるという目的を持って、月に一回はインターネットによるテレビ電話会議で集まり、3、4ヶ月ごとには直接会うことにしている。

このような取り組みに対して資源を提供してくれたNAWSや支援してくれたメンバーたちには、心からお礼を申し上げる。そして、アフガニスタンの仲間みなさん、本当にお疲れ様でした。

アジア パシフィック フォーラム  
フェローシップディベロップメント委員会

## アロハ、NA

NAオアフエリアから、うれしいお知らせです。2014年4月25日～27日にオアフ島のノースショアで第30回「ハワイギャザリング（ハワイの集い）」が開催されます。場所は、美しいノースショアの岸辺にあるキャンプ場。これは週末にかけて開かれる回復を祝うイベントで、さまざまなワークショップやミーティングに参加しながら、ダンスをしたり、日差しを楽しんだり、泳いだり、釣りをしたり、シュノーケリングをしたり、のんびり過ごしたりするものです。

このハワイのキャンプアウトが初めて行われたのは1984年のことで、当時は「NAのラウンドアップ」と呼ばれていました。でも、AAで行われるキャンプアウトが「AAのラウンドアップ」となったため、紛らわしいので、NAでは次回から呼び名を変えようということになりました。こうして新しく「NAギャザリング（NAの集い）」となったイベントが、1985年の2月14日～16日に開かれたのです。場所は、モクレレのクロージャーレーンの外れにある救世軍所有のキャンプ場、キャンプ・ホームランドでした。あまり広いところではありませんでしたが、250名以上のメンバーがやってきました。料理は全部自分たちでつくりました。私の弟は食事当番になり、私はサモアから参加した仲間と共同で実行委員長を務めました。参加登録料はいくらだったか、思い出せません。でも、私たちは誰でも歓迎しましたよ。食事のときも、参加料を払ったメンバーにひととおり行き渡ったら、あとはもうだれでも食べ放題だったのです。

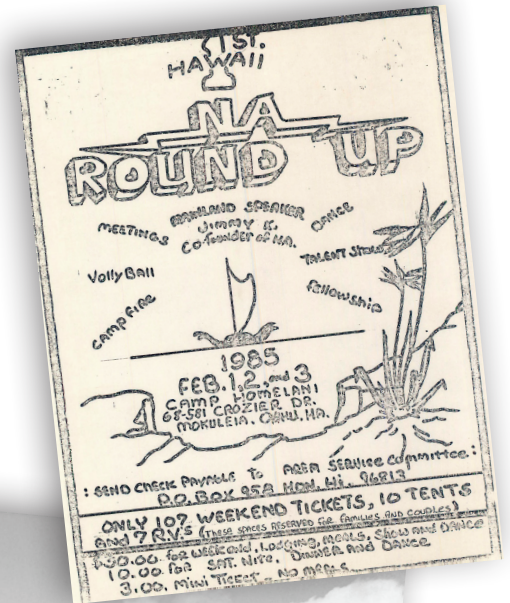
メンバーは、ハワイの各島々からだけでなく、カリフォルニア、ニューヨーク、日本からもやって来ました。イベントの1週間前には大勢の訪問者がホノルル市内に到着していたため、水曜夜に開かれるホボノボのミーティングには200人のメンバーが集まりました。それは、「集い」の終わった後でも同じで、日曜夜にオハナで開かれるミーティングはすし詰め状態でした。和気あいあいとして一体感にあふれ、だれにとっても活力

となるひとときだったのです。地元のメンバーのひとり、会場となった岸辺で日曜の朝に結婚式まで挙げてしまいました。

ワールドサービスカンファレンスからは、評議会のメンバーと議長が出席してくれました。日曜の夜には、長年にわたって支援をしてくれたAAメンバーがたくさんやってきて、一緒に祝ってくれたのです。そして、NAの共同創設者の一人であるジミー・Kがスピーカーをすることになっていました。ジミーは、2月2日に35年のグリーンタイムを祝ったので、この場に参加することをものすごく楽しみにしていたのですが、あいにく風邪を引いてしまい、とても具合が悪くて参加できないと開催の一週間前に連絡がありました。それから病院に入院したまま、この年の7月に亡くなったのです。ジミーの代役には、カリフォルニアから長くグリーンタイムを続けているメンバーが参加し、すばらしいNAのメッセージを伝えてくれました。しかも、このメンバーはジミー・Kから私たちみんなへのメッセージを録音して運んでくれたのです。

私たちは、れっきとしたNAの一員であるという実感がしました。いつまでも、先につながった仲間たちの恩恵に浴している存在ではないということです。ハワイのNAにしてみれば、一人前になる道のりの一つだったのでしょう。

トム・M（アメリカ合衆国／ハワイ）



Photos: Erik R, Hawaii, USA



そろそろ準備に取りかかろう  
**WCNA36は、ブラジルのリオデジャネイロだよ！**

2015年6月11日～14日



現在の予定では、参加登録とホテルの予約受付の開始を2014年の6月  
からとし、支払い方法にはいくつかの選択肢を提供するつもりです。今回  
は、英語とポルトガル語によるバイリンガルの（2カ国語で進行す  
る）コンベンションになるように準備を進めています。7  
月に入ったら、スピーカーとスピーカー選考委員を募  
集していくことになるでしょう。

私たちは現在、ホテルと施設の手配を進めているとこ  
ろです。コンベンションの会場となるのは、リオ・セントロ・コ  
ンベンション・セントレ。この会場はバーラ・デ・チジュカとい  
う地域に近く、リオの中心地からは30キロほど離れていま  
す（交通事情からして、リオと会場の間を往来するのは  
どう考えてもおすすめできません）が、周辺のホテルはほとん  
どが美しい海辺に面しています。とにかくこのとてつもない国をじっ  
り探索していただこうと、コンベンションの開催前と開催後には、ブラジル  
国内や周辺をめぐるいろんなツアーをご用意するつもりです。詳細につい  
ては、お楽しみに・・・マイ・セラ・リベラド（ポルトガル語「詳しいことが明らか  
にされる」）！

！

Calling All Newsletter Editors and Committees

**Does your area or region publish a newsletter?**

Please let us know—and add us to your email/ mailing list!

[naway@na.org](mailto:naway@na.org)

*The NA Way Magazine*; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409

Share or seek newsletter experience on the discussion board:

<http://disc.na.org/servdisc>



# CALENDAR

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at [www.na.org/events](http://www.na.org/events). (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or The NA Way; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Our Calendar section was decreased to one page in recent years to save print space (which equals cost savings) and because most can access the online event calendar. We create the NA Way Calendar page from the online calendar database at [www.na.org/events](http://www.na.org/events), which is viewed some 20,000 times each month.

Our production schedule fluctuates sometimes to coincide with the World Convention, World Service Conference, or other events, so we are adjusting the printed date ranges, starting with a longer-than-usual window of time for this issue, and then following the usual three-month range beginning in July. Because the magazine is produced approximately three months before publication, event information should be submitted according to the dates listed below. If you have questions or concerns, we always welcome your input and inquiries at [naway@na.org](mailto:naway@na.org).

Issue	Events Occurring	Submission Deadline
April	10 April – 31 July	15 January
July	1 August – 31 October	15 April
October	1 November – 31 January	15 July
January	1 February – 30 April	15 October

## Argentina

Mar Del Plata 11-13 Apr; Area Mar Del Plata Convention 9; Gran Hotel Santa Teresita, Mar Del Plata; [www.facebook.com/convencionna.mdq](http://www.facebook.com/convencionna.mdq)

## Brazil

Belem 11-13 Apr; Belem Area Convention 14; Seminario Mae da Divina Providencia, Belem; Event Info: [adictotorquato@gmail.com](mailto:adictotorquato@gmail.com)

## Canada

Alberta 16-18 May; Chinook Area Convention; Delta Calgary South, Calgary; [www.chinookna.org](http://www.chinookna.org)

Nova Scotia 14-20 Jul; Pig Roast & Campout 25; Blomidon Provincial Park, Canning; Event Info: 902.692.1031

## Croatia

Seget Donji 6-8 Jun 2014; Adriatic Regional Convention 8; Hotel Medina, Seget Donji; Event Info: [odborzatrogir@hotmail.com](mailto:odborzatrogir@hotmail.com)

## Portugal

Setubal 7-8 Jun; Portuguese Regional Convention 24; Centro Paroquial Senhora da Anunciada, Setubal; [www.facebook.com/XXIVCPNA](http://www.facebook.com/XXIVCPNA)

## Puerto Rico

San Juan 25-27 Jul; Convención Unidos Podemos 25; Condado Plaza Hilton Hotel, San Juan; Speaker tape deadline: 1 Jun; [www.prna.org](http://www.prna.org)

## Spain

Algeciras 6-8 Jun; Spanish Regional Convention; Hotel Santa Cristina, Algeciras; [www.narcoticosanonimos.es](http://www.narcoticosanonimos.es)

## Tanzania

Dar es Salaam 21-24 May; East Africa Regional Convention 2; Hotel South Beach Resort, Dar es Salaam; [www.ea-na.com](http://www.ea-na.com)

## Ukraine

Donetsk 2-4 May 2014; First Ukraine Regional Convention; DNNU, Donetsk; [www.uccna1.org](http://www.uccna1.org)

## United Kingdom

Aberdeen 24-25 May; A Vision of Hope; Queen Street Church, Aberdeen; Event Info: [ecscna@ukna.org](mailto:ecscna@ukna.org)

## United States

Arizona 23-25 May; Arizona Regional Convention 28; Scottsdale Doubletree, Scottsdale; [www.arizona-na.org](http://www.arizona-na.org)

California 17-20 Apr; Northern California Regional Convention 36; Sacramento Convention Center, Sacramento; [www.norcalna.org](http://www.norcalna.org)

2) 18-20 Apr; San Diego Imperial Counties Regional Convention 29; Manchester Grand Hyatt San Diego, San Diego; [www.sandiegona.org](http://www.sandiegona.org)

3) 30 May-1 June; Ride4 Recovery; Sierra Bible Camp, Canyon Dam; [www.naride4recovery.com](http://www.naride4recovery.com)

4) 18-20 Jul; Napa/Solano Area Women's Spiritual Retreat; Golden Pines RV Resort & Campgrounds, Camp Connell; [www.napasolanowomensretreat.com](http://www.napasolanowomensretreat.com)

5) 18-20 Jul; Greater Los Angeles Area Convention 7; Los Angeles Airport Hilton Hotel, Los Angeles; [www.glana.org](http://www.glana.org)

Florida 11-13 Apr; Space Coast Area Convention; International Palms Resort, Cocoa Beach; Event Info: [sconconv@gmail.com](mailto:sconconv@gmail.com)

2) 19-24 Apr; Greater Orlando Area Recovery at Sea 3; Carnival Cruise Lines Port of Tampa, Tampa; Event Info: 407.421.6525

3) 2-4 May; Daytona Area Convention 15; Plaza Resort & Spa, Daytona Beach; [www.daytonana.org/dacna-convention](http://www.daytonana.org/dacna-convention)

4) 3-6 Jul; Florida Regional Convention 33; Rosen Shingle Creek, Orlando; [www.naflorida.org](http://www.naflorida.org)

5) 25-27 Jul; Mid Coast Area Convention 13; Boca Raton Marriott, Boca Raton; [www.mccna.com](http://www.mccna.com)

Georgia 1-4 May; A Little Girl Grows Up 6; Hilton Airport Hotel, Atlanta; Event Info: [algg6kitty@yahoo.com](mailto:algg6kitty@yahoo.com)

2) 3-6 Jul 2014; Midtown Area Convention 23; Renaissance Concourse Atlanta Airport, Atlanta; [www.midtownatlantana.com](http://www.midtownatlantana.com)

Hawaii 25-27 Apr; Camp Mokulei'a, Waialua, Oahu; [www.na-hawaii.org/area\\_gatherings.htm](http://www.na-hawaii.org/area_gatherings.htm)

Idaho 11-13 Jul; Serenity in the Wilderness Campout; Elks Flat Campground, Boise National Forest; Event Info: [harperkns@gmail.com](mailto:harperkns@gmail.com)

Illinois 25-27 Apr; Rock River Area Convention 23; Clock Tower Resort, Rockford; [www.ragsna.org](http://www.ragsna.org)

Indiana 18-20 Apr; Kentuckiana Regional Convention 28; Clarion Inn and Convention Center, Evansville; [www.nakentucky.com/kentuckiana-region-of-na](http://www.nakentucky.com/kentuckiana-region-of-na)

Louisiana 23-25 May; Louisiana Regional Convention 32; Crowne Plaza, Baton Rouge; Event Info: 225.978.4749



Maryland 11-13 Apr; Chesapeake & Potomac Regional Convention 28; Roland E Powell Convention Center, Ocean City; [www.cprcna.org/28](http://www.cprcna.org/28)

Michigan 17-20 Apr; Detroit Areas Convention 22; Adoba Hotel, Dearborn; Event Info: 248.242.3988

2) 3-6 Jul; Michigan Regional Convention 30; Sheraton, Ann Arbor; speaker tape submission deadline: 12 March; [www.michigan-na.org/mrcna](http://www.michigan-na.org/mrcna)

Minnesota 11-14 Apr; Minnesota Regional Convention 21; Doubletree Minneapolis; [www.naminnnesota.org/mnnc](http://www.naminnnesota.org/mnnc)

Nebraska 23-26 May; Nebraska Region Run for Fun Memorial Day Campout 34; Alexandria State Recreation Area; [www.nebraskana.org](http://www.nebraskana.org)

New Hampshire 25-27 Jul; Granite State Area Convention 8; Nashua Radisson, Nashua; [www.gsana.org](http://www.gsana.org)

New Jersey 30 May-1 Jun; Ocean Area Convention 7; Berkeley Oceanfront Hotel, Asbury Park; [www.convention.ocanj.org](http://www.convention.ocanj.org)

New Mexico 15-18 May; Rio Grande Regional Convention 25; Albuquerque Marriott Pyramid North, Albuquerque; [www.riograndena.org](http://www.riograndena.org)

New York 9-11 May; Western Queens Area First Stop to Freedom 4; Hyatt Regency Long Island, Hauppauge; [www.westernqueensna.org/convention](http://www.westernqueensna.org/convention)

2) 23-25 May; Heart of New York Area Convention 10; Crowne Plaza Hotel Syracuse, Syracuse; [www.honyana.org](http://www.honyana.org)

North Carolina 6-8 Jun; North Carolina Capital Area Convention 25; Raleigh Marriott Crabtree Valley, Raleigh; [www.capitalareancna.com](http://www.capitalareancna.com)

2) 18-20 Jul; New Hope Area Convention 21; Durham Convention Center, Durham; [www.newhopeconvention.com](http://www.newhopeconvention.com)

Ohio 23-25 May; Ohio Convention 32; Wyndham Garden Dayton South, Miamisburg; [www.dascna.org/index.php/ocna-32-dayton-oh](http://www.dascna.org/index.php/ocna-32-dayton-oh)  
2) 4-6 Jul; Dayton Area Convention 10; Wyndham Garden Hotel, Miamisburg; [www.dascna.org](http://www.dascna.org)

Oregon 16-18 May; Pacific Cascade Regional Convention 20; Ramada Medford Hotel & Convention Center, Medford; [www.soana.org/pccrnaxx.html](http://www.soana.org/pccrnaxx.html)

Tennessee 28-30 Nov; Volunteer Regional Convention 32; Sheraton Music City Hotel, Nashville; [www.natennessee.org](http://www.natennessee.org)

Texas 2-4 May; Area de Habla Hispana de Texas Convention 3; Lake Palestine Resort, Frankston; [www.natexas.org](http://www.natexas.org)

2) 23-25 May; Texas State Convention 12; MCM Elegante Hotel, Beaumont; [www.tscna.org](http://www.tscna.org)

3) 16-18 Jan 2015; First Esperanza Area Convention; Hilton San Antonio Airport, San Antonio; [www.eacnaonline.org](http://www.eacnaonline.org)

Utah 6-8 Jun; High Uintah Area Celebration of Recovery; American Legion Hall, Vernal; Event Info: [jim\\_tamie@yahoo.com](mailto:jim_tamie@yahoo.com)

2) 20-22 Jun; Southern Utah Area Convention 7; Lexington Hotel & Conference Center, Saint George; [www.suana.org](http://www.suana.org)

Virginia 23-26 May; Marion Survivor's Group Campout; Hungry Mother Lutheran Retreat Center, Marion; [www.mana-e-tn.org](http://www.mana-e-tn.org)

2) 20-22 Jun; East Coast Convention 18; College of William and Mary, Williamsburg; speaker tape submission deadline: 30 Apr; write: Central Atlantic Region; Box #144; Mays Landing, NJ 08330; [www.eccna.org](http://www.eccna.org)

Washington 25-27 Jul; Seattle International Convention; Lynnwood Convention Center, Lynnwood; [www.seattlenaconvention.org](http://www.seattlenaconvention.org)

Wyoming 16-18 May; Upper Rocky Mountain Regional Convention 15; Roundhouse, Evanston; [www.urmrna.org/convention](http://www.urmrna.org/convention)

2) 11-13 Jul; Central Basin Area Retreat Serenity Under the Stars; Fremont County Youth Camp, Lander; Event Info: [landerna@gmail.com](mailto:landerna@gmail.com)



# NAWS Product Update



## Chinese

*Information about NA*

关于NA

Item No. ZPRCH1002 Price US \$0.30

进一步的探索

Item No. CH-3105 Price US \$0.24

欢迎你来到NA

Item No. CH-3122 Price US \$0.24



## Russian

*Behind the Walls*

В неволе

Item No. RU-1601 Price US \$0.95

## Thai

การฟื้นฟูสภาพและการกลับไปใช้ยาซ้ำ

Item No. TH-3106 Price US \$0.24

ฉันเป็นผู้ติดยาเสพติดหรือไม่?

Item No. TH-3107 Price US \$0.24

ดำเนินชีวิตตามวิถีทางปฏิบัติของ  
สมาคมผู้ติดยาเสพติดนิรนาม

Item No. TH-3109 Price US \$0.24

การสนับสนุน

Item No. TH-3111 Price US \$0.24

ยินดีต้อนรับสู่ สมาคมผู้ติดยาเสพติดนิรนาม

Item No. TH-3122 Price US \$0.24

## Chinese (Traditional)

我是成癮者嗎?

Item No. CT-3107 Price US \$0.24



## Korean

오늘 하루만

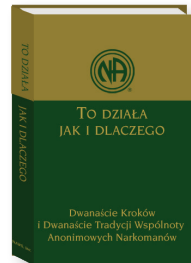
Item No. KO-3108 Price US \$0.24

## Polish

*It Works: How & Why*

*To działa: jak i dlaczego*

Item No. PL-1140 Price US \$9.00



*Zdrowienie i nawrót*

Item No. PL-3106 Price US \$0.24

*Życie programem*

Item No. PL-3109 Price US \$0.24

*Pozostanie czystym na zewnątrz*

Item No. PL-3123 Price US \$0.24

# Coming Soon

## Spanish

*Living Clean: The Journey Continues*

*Vivir limpios: el viaje continúa*

Item No. SP-1150 Price US \$9.75

